

古事類苑

歲時部十三

年始雜載

年始ニハ、上朝廷ヨリ下庶民ニ至ルマデ、其行事甚ダ多端ナリ、今其記事ノ以テ一篇ト爲スニ足ラザルモノヲ合セテ、年始雜載ト稱シ、之ヲ年始祝篇ノ後ニ附ス、

門松ハ、歲首松ヲ門前ニ立テ、飾トスルヲ云フ、故ニ後ニハ又之ヲ松飾トモ稱セリ、而シテ歲尾ニ之ヲ立テ、正月七日ニ之ヲ撤スルヲ以テ、元日ヨリ此日マデヲ松ノ内ト稱ス、然レドモ或ハ十五日ノ爆竹ニ至ルマデ之ヲ存スルモノアリ、

注連飾ハ、注連繩ニ、讓葉、穗長草等ヲ插ミタルモノニシテ、之ヲ神棚、門戶等ニ施シ、以テ清淨ノ意ヲ表ス、其之ヲ用キル日限ハ門松ニ同ジ、

年男ハ、年末歲首ノ儀式ヲ掌ルモノヲ言フ、足利氏ノ比ヨリ其名見エタリシガ、徳川幕府ノ時表ノ方ハ老中、奥ノ方ハ留守居ニ命ジ、煤拂、節分及ビ元三以下、凡テ年始ノ諸祝儀ヲ管セシム、

千秋萬歲ハ、後ニ萬歲ト稱ス、歲首、朝家及ビ幕府ニ參リ、又民間ヲ巡リ、歌舞シテ歲首ヲ祝スル者ナリ、後世其大和三河等ヨリ來ルモノヲ大和萬歲、三河萬歲ト稱ス、

鳥追ハ、蓋シ田疇ノ鳥ヲ驅ルニ起レリ、歲首乞巧ノ婦女編笠ヲ頂キ三絃ヲ鼓シテ歌謠スル者ナリ、